

防災新聞

福島秀悠
4月8日発行

避難ビルの役目

避難ビルは、津波が来たときに避難するビルのことです。高さ9・9メートルで建物の中に一つ、外に一つあります。消防団が避難し設に入っているビルとよび入っていないとタワーといひます。避難し設には、400人が入れ、食料は、400人分の食分があ

ります。なせろ食分なのかと言うと一日ほどで救助されると計算されているからです。とくに、避難し設にある物で工夫していると思っただことは、ざぶとんに救命ぶういが入っていることでした。避難し設には、色々な工夫があります。ほかの地いきでもこのような取り組みを行っていると思ひます。かざりけのない建物が

人々の生活が分かる古文書

昔の和紙はとてもじょうぶで、何もなければ1000年もつと教えていたただきました。昔の人々は、生活の様子を古文書に書いていたそうです。ひ



避難ビル 消防団

ですがじょうぶなところが分かりました。

編集後記

災じて、いろ水がかかったも東北大学には、ふく元する技じやつがあります。古文書の発見で、歴史が変わることもあるのでゴミだと思ひ、捨てないでください。ボランティアのみなさんが、どろを落とすじみちな作業をしていて東北大学を支えていました。最初は、古文書を全く読めなかつた方が読めるようになったことにもおどろきました。

色々な体験をさせていたただきありがとうございました。